

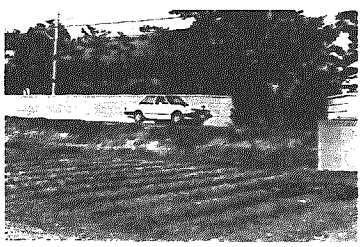
黒埼町の 今昔

幻の旧信濃川(1) 善久・山田は新旧信濃川に はさまれた川中島であった。

新潟地震の傷跡から旧信濃川が顔を出す
現在の善久、山田はかつて「山田島」とよばれた信濃川の川中島である。黒埼町にも新しい住民が増え、また古人も少なくなってきたので知る人もあまりないようだ。
今号から山田島の変遷について連載していくが、わたしがこの山田島に興味を持ったのは新潟地震のときであった。

新潟地震の被害が最も大きかったのは善久地域である。国道8号線は数百メートルの亀裂や陥没が起きた。わたしはその惨情を見たとき、以前祖父から聞いた話を思い出した。
「善久のあたりは昔、信濃川が流れていた。今の本流は支流で善久から寺地の方を流れていたのが本流で、善久はその分かれ目のところだ」
この本流・旧信濃川については多くの人が知っていた。事実、現在でも旧信濃川の堤防跡が残っている。また旧信濃川が西蒲原郡と中蒲原郡の境界であった。山田、善久は昭和二十三年に合併するまで中蒲原郡曾野木村であった。
しかし、これ以上のことはわからない。旧信濃川はどう流れていたのか。なぜ、いつ、どうやって埋め立てられたのか。

新潟地震で善久の国道8号線あたりから、古い柵や古い道が旧信濃川の河口の埋め立ての上に築かれたとは想像がついたが、町史への興味などまるでなかった当時のわたしは、それ以上考えることはしなかった。
証言、史料、地図などで見えてきた旧信濃川
それから二十年近くたち、昭和五十六年に「大野町の今昔」を出版したわたしは、次に町北部の寺地、立仏、山田善久地域の歴史を知りたくなった。というのも、この地域は近年大きく都市化し変貌したからであるし、他地区には一応部落史が出ていたからである。
この年の秋から調査し始めたが、ようやく広報で発表できる段階になった。スペースの関係でかなり大きければなるが、できるだけわかりやすく書くつもりであるのでご容赦願いたい。詳しくは



今も残る旧信濃川の堤防跡

近い将来刊行される黒埼町史で紹介する予定である。
旧信濃川を中心にした町北部の歴史の発掘、と息ごんではみたものの何から初めてよいかわからなかった。
まず人に聞くことからはじめよう
と地域の古老を訪ねることにした。主に話を聞いた人は一坂井市次郎さん、(上山田)鈴木治三郎さん、(柳木)鈴木源吾さん、(善久)加藤喜蔵さん(上山田)清水久治さん(下山田)中村庄次郎さん(下山田)富岡富平さん(善久)大橋憲司さん(寺地)であるが、このほかにも多くのかたにお会いした。
もちろん、県史編さん室、県立図書館、町外の市町村史、郷土史研究家などにも当たったが、予想どおりほとんど史料はなかった。
ただ、建設省北陸地方建設局が昭和五十四年に発行した「信濃川百年史」と「新潟県市町村合併誌」に若干旧信濃川について記述があった。最近になって「新潟新聞」の復刻本が刊行され、これにかなり重要な史料が見つかった。さらにこの三年間に幸運だ

たことは予想外の史料が発見されたことである。例えば建設省の新堤防設計図(現在の国道8号線、善久の古地図、旧信濃川の開墾の図面や写真などである。
これらの証言や記録、史料なども引用してペンを進めていきたい。なお、皆さんの中で疑問などを持たれたらぜひ町史編さん室の方に連絡してほしい。まだ不完全な部分もあるかと思うからである。
今の信濃川と旧信濃川には
さまれた山田島
今の善久、山田地区が「山田島」とよばれてまだ川中島だったころ、島には合子ヶ作村の三つの集落と西楚川新田の三つの集落があった。
合子ヶ作は山田村ともよばれた今の山田地区である。村

の始まりは定かではないが、親鸞の旧跡として知られている古い村である。
西楚川新田は今の善久地区で、この村の開墾は寛永十四年(一六三七年)と新潟県市町村合併史に記されている。
東西を二筋の川、すなわち今の信濃川と旧信濃川に囲まれていた山田島は、黒埼の北々東に位置し南北にひょうたん型に延びていた。面積は百五十町歩余に及んだ。
東側は今の信濃川で、江戸時代は「鳥屋野川」とよばれた。当時は対岸の鳥屋野の人々に大根などの野菜を投げて渡せるほど狭かったという。
西側には「大河」とよばれた旧信濃川が流れ、対岸は今の寺地、立仏、柳作であった。この大河が西蒲原郡と中蒲原郡の境界である。
旧信濃川の長さは約三・二キロ、川幅は最も広い所で四百数十メートル(立仏―山田間)狭い所で三百メートル近く(善久―柳作間)あった。

天保13年(1842年)の古地図



善久、合子ヶ作、山田は川中島であるし、今の信濃川の方が狭い支流である

- ### 山田島略年表
- 西暦 (年号) 主なできごと
- 一〇七〇 (承元六年) 親鸞、越後に流される。一二二四年に去るが「焼鮒」の伝説を残す。
 - 一六三七 (寛永十四年) 西楚川新田の開墾始まる。
 - 一八三七 (天保八年) 天野で信濃川の川筋を変更する工事。一八六〇年に完工し、下流の川筋にも影響を与える。これが旧信濃川の水量を減少させた。
 - 一八八三 (明治十六年) 合子ヶ作小学校(山田小)が開校。
 - 一八九六 (明治二十九年) 信濃川に新堤防が始まり、合子ヶ作、楚川新田は集団移転。

現在の新潟交通電鉄線はちょうどこの川の中心を走っている。山田小学校、寺地駅、焼鮒駅、越後大野駅もこの川の中にある。
旧信濃川の堤防は現在、寺地付近で一部民有地として払い下げられている所を除き、ほとんどが低く削られてそのまま道路となっている。
旧信濃川の善久の河口が締められたのは明治二十九年である。
旧信濃川の埋め立ては明治中期から大正中

期である。これらは後に詳しく述べる。
山田島の各集落の分布状態と島の人々の暮らし
旧信濃川は明治二十九年の河川改修により善久と寺地の河口をふさがれた(後述)がこの当時の山田島の人々の暮らしをみてみよう。
島には合子ヶ作の三集落と西楚川新田一集落があり、まだ下山田部落はなかった。
島の東側河畔に「東部落」二十一戸があり、川筋に添って並ぶように「合子部落」二十一戸があった。
この集落の東側、鳥屋野川添いには洪水から部落を守る

ため二重に堤防が築かれていた。
山田島の西側にあたる旧信濃川河畔には三十余戸の西山田の「西部落」があった。この部落で代々神官を勤めていた田代家は、その昔黒鳥兵衛に滅ぼされた山上護摩堂山城主羽入田周防守の流れをくむといわれる。
この合子ヶ作三部落の耕地は約百町歩ほどで、合子部落と西部落の間には今も地名として残る「曾根畑」は地質がよく野菜がよくできた。中でも「山田南瓜」とよばれた瓜は舟で新潟市へ出荷され、美味でよく売れたという。

合子ヶ作は敬神の念があつく三部落それぞれに一社づつ神を祀っていた。
東部落には妙儀社、合子には山王様、西部落には神明宮が安置されており、このほか田代家で祀る八幡宮があった。
いわゆる越後七不思議の一つ「焼鮒」、親鸞が焼いた鮒を泳がせた池は合子の神社の池(今の山下家具の川端あたり)といわれている。
四社の祭日は同じで春は四月十五日、秋は九月十五日であった。
以上は故渡辺彦作氏の遺稿を元にしたものである。」

西楚川新田は島の南側にあり、「古屋敷」(今も地名として残っている)とよばれる八戸(七戸ないし九戸)の集落があり、ここにも白山宮が祀られていた。
西楚川新田は、今の信濃川の対岸の曾根川村(現新潟市曾川)の飛び地として、寛永十四年(一六三七年)に始められた新田開墾が集落の起りである。

- 一九〇三 (明治三十六年) 旧信濃川干上り地の占用権の入札が行われる。
- 一九〇五 (明治三十八年) 新堤防工事完了(明治四十五年)田上の大地主田巻家により開墾が本格的に始まる。大正中ばに終了した。
- 一九三三 (昭和八年) 新潟交通の電車が開始する。
- 一九四五 (昭和二十年) 堤外地に陸軍飛行場が出る。
- 一九四八 (昭和二十三年) 山田、善久は曾野木村を離れ黒埼村と合併する。当時の戸数は善久四十五戸、上山田三十三戸、下山田二十七戸で合計百五戸であった。
- 一九五〇 (昭和二十五年) 信濃川大橋出来る。

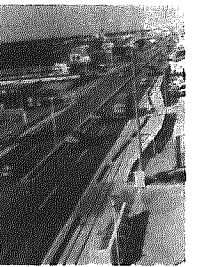
現在の新潟交通電鉄線はちょうどこの川の中心を走っている。山田小学校、寺地駅、焼鮒駅、越後大野駅もこの川の中にある。
旧信濃川の堤防は現在、寺地付近で一部民有地として払い下げられている所を除き、ほとんどが低く削られてそのまま道路となっている。
旧信濃川の善久の河口が締められたのは明治二十九年である。
旧信濃川の埋め立ては明治中期から大正中

期である。これらは後に詳しく述べる。
山田島の各集落の分布状態と島の人々の暮らし
旧信濃川は明治二十九年の河川改修により善久と寺地の河口をふさがれた(後述)がこの当時の山田島の人々の暮らしをみてみよう。
島には合子ヶ作の三集落と西楚川新田一集落があり、まだ下山田部落はなかった。
島の東側河畔に「東部落」二十一戸があり、川筋に添って並ぶように「合子部落」二十一戸があった。
この集落の東側、鳥屋野川添いには洪水から部落を守る

ため二重に堤防が築かれていた。
山田島の西側にあたる旧信濃川河畔には三十余戸の西山田の「西部落」があった。この部落で代々神官を勤めていた田代家は、その昔黒鳥兵衛に滅ぼされた山上護摩堂山城主羽入田周防守の流れをくむといわれる。
この合子ヶ作三部落の耕地は約百町歩ほどで、合子部落と西部落の間には今も地名として残る「曾根畑」は地質がよく野菜がよくできた。中でも「山田南瓜」とよばれた瓜は舟で新潟市へ出荷され、美味でよく売れたという。

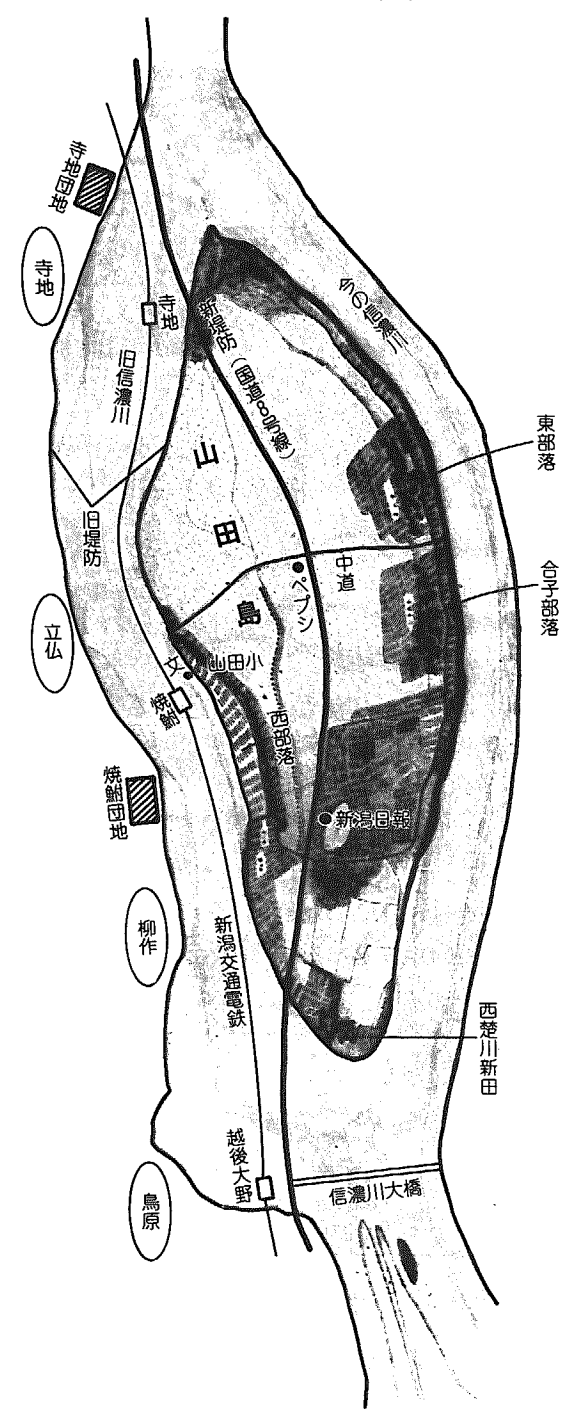
合子ヶ作は敬神の念があつく三部落それぞれに一社づつ神を祀っていた。
東部落には妙儀社、合子には山王様、西部落には神明宮が安置されており、このほか田代家で祀る八幡宮があった。
いわゆる越後七不思議の一つ「焼鮒」、親鸞が焼いた鮒を泳がせた池は合子の神社の池(今の山下家具の川端あたり)といわれている。
四社の祭日は同じで春は四月十五日、秋は九月十五日であった。
以上は故渡辺彦作氏の遺稿を元にしたものである。」

西楚川新田は島の南側にあり、「古屋敷」(今も地名として残っている)とよばれる八戸(七戸ないし九戸)の集落があり、ここにも白山宮が祀られていた。
西楚川新田は、今の信濃川の対岸の曾根川村(現新潟市曾川)の飛び地として、寛永十四年(一六三七年)に始められた新田開墾が集落の起りである。



国道8号線の沿線

ちょうかんず 明治初めごろの山田島鳥瞰図



宮田栄門さんがかかれた明治初めごろの山田島鳥瞰図。現在の山田・善久地区は明治以前旧信濃川と今の信濃川にはさまれた川中島であった。信濃川は江戸末期には現在の川筋になったと思われるが、昔は旧信濃川が大河とよばれる本流で今の川が支流であった。旧信濃川は江戸時代徐々に水量が減り、明治29年に新堤防が築かれ河口はふさがれた。新堤防は今の国道8号線である。

旧信濃川は開墾され大正中ばには田畑になった。合子ヶ作、楚川新田の両部落は新堤防の内側に集団移転させられ、これが今の山田、善久の始まりである。昭和になると新潟交通電鉄線が敷かれ、戦中堤防の外側には陸軍の飛行場が出来た。昭和23年に善久、山田は黒埼村に合併され、近年旧信濃川は住宅地に、8号線沿線には多くの事業所が進出している。